
歩けるように

印般

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歩けるよつに

【ZZコード】

Z8560C

【作者名】

印殷

【あらすじ】

愛犬の事故。後ろ足が動かなくなつた。あなたなら、どうしますか？

私は、愛犬「ヴェル」と一緒に今まで幸せに暮らしてきた。そう、あの事故が起るまでは・・・。「ヴェル！ヴェルー。」五月六日ヴェルは、散歩中に私の目の前で自転車に撥ねられたのである。私は病院の片隅でヴェルの無事を祈っていた。

「一命は取り留めましたが、後ろ足は動かないでしょう。」

私は頭の中が真っ白になった。「そんな、そんな・・・後ろ足が動かないなんて・・・」その日一日、私は悲しみにくれていた。一週間後、ヴェルが帰ってきた。私の悲しそうな顔を見て、心配してるのがどうかヴェルも暗い顔をしていた。なぜかヴェルは昔から私が暗い顔をしているとヴェルも暗い顔になるのだつた。次の日獣医の先生に車椅子を勧められた。しかし私は断わつた。私はヴェルに手作りの車椅子を作つてあげようと思ったのだ。翌日、ホームセンターワゴン車輪と板を買ってきました。

「ヴェル、車椅子を作つてあげるね。」

私は早速ヴェルの車椅子作りを開始した。ヴェルもうれしそうに作つている様子を見たいのか、前足だけで進んでくる。半日かけて完成した。早速後ろ足を引っ掛けみて。成功した。ヴェルは嬉しそうだつた。しかし一週間後、車椅子を外すと、

「え？何これ？」

病院に連れて行くと、

「これは、床ずれだね。」

忘れていた。一日中車椅子を着けておくと車椅子に接している部分が腐つてきていたのだ。この車椅子は失敗に終わつた。私は、くじけずもう一度作つてみた。足が接する部分にスポンジを貼り一時間おきに外すよう心がけた。これで床ずれという問題は解消された。久しぶりに散歩に出かけた。ヴェルも嬉しそうだつた。公園に行き

家に帰った。しかし、動くのが少し遅くなつた。車輪が少し重いのだ。ホームセンターでもう少し軽い車輪がないか探した。今日はみつからなかつた。私はヴェルを見つめ「ヴェルは大丈夫なのかな。」そう思うとかなしなくなつた。翌日、隣町の大きなホームセンターに車で出かけた。お店の人聞いてみるとどうど在庫で一組あつた。私は大喜びで買って急いでヴェルのいる家へ帰つた。今度は完璧だつたようだ。歩くスピードも元に戻つた。そんな事から私もつとヴェル尽くしてあげたかつた。私はついに、十数年貯めてきた貯金を下ろし、小さな庭付一戸建てに引っ越ししたのである。それから数ヶ月たつたある日、私は庭の手入れをしていたらヴェルが異常な程後ろ足をバタつかせていたのである。私はいつかの獣医さんの言葉を思い出した。

「奇跡が起これば立てる可能性があるかもしません。」

よく見てみると鼻で車椅子を取ろうとしているのだ。私は少しの可能性に懸けてみることにした。「もしかして、立てるかもしない。・・・」私は車椅子を外してみた。すると・・力なかつたが確かに立つたのだ。この作品を読んでいる方にとっては「あー、そーですか。」の様な事だろうけど、私にとつて今まで生きてきた中、最高の喜びだつた。それからという物私は毎日ヴェルを庭に出し、リハビリを続けていた。それから半年後、職場から帰り玄関の鍵を開けようとしていると中からヴェルの力強い鳴き声が聞こえてきた。私は玄関の扉を開けた。「ただいま。」を言う前に驚きの光景が目に飛び込んできた。それは、ヴェルが歩いていた。というか、走っていた、と言つたほうが正しいのかもしれない。私は胸一杯嬉しさがこみ上げて來た。と、同時に一つの言葉が出た。

「ヴェル・・ありがとう・・ごめんね・・・。」

この言葉が口に出たとき、私は大粒の涙を流していた。それからと言つもの私とヴェルは、事故が起こる前と同じように暮らしてきた。その後ヴェルは寿命で他界したが悲しくはなかつた。なぜなら、ヴェルが大事な事を教えてくれたからだ。それは、一口に“犬”と言

つてもちゃんとした飼い主に育てられている者もいれば、飼い主に虐待をされ最後は捨てられていったり、このように犬といつてもいろいろな者があるのだ。これから私は、いろいろな動物保護に協力していくないと、思っている。

(後書き)

内容がかみ合っていないかもしませんが、「ご了承下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8560c/>

歩けるように

2010年10月9日01時30分発行